

支部24春闘学習決起集会



2024. 4. 12
NO. 676号

全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27

06-6574-8424
078-303-0800

組合の基幹的な取り組みで重要な位置付けがされている春闘をたたかっている中で、機運を盛り上げ、旺盛な交渉を行っていくために春闘決起集会を3月16日にポートオアシスで開催しました。

記念講演には今まさに時の人といっても過言ではない神戸学院大学法学部の上脇博之教授をお招きし、「政治に無関心を改め、国民生活最優先の政治に転換させよう！」のテーマでお話して頂きました。

皆さんの記憶にも新しい昨年末からの自民党派閥による裏金キックバック問題、上脇先生の告発が発端

となり広く国民に知らされました。しかし上脇先生はそれよりもっと前から自民党の政治に深く切り込まれています。

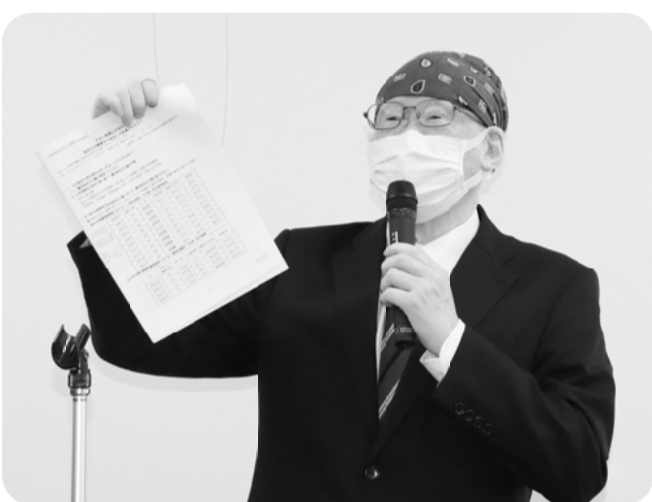
その経験から、一番の問題は1994年の政治改革で中選挙区制から小選挙区制(1つの選挙区から1名のみが議員当選する制度)に移行した事であると主張されました。

「日本国憲法は国民主権に基づく議会制民主主義の立場を掲げており、国会は民意の縮図であるべきだがそうはなっていない。小選挙区制度では、全体の過半数に達していない得票率にも関わらず、自民党議員が得票率を大幅に上回る多くの議席を確保する事になってしまいう事がデータにより示され、全く民意が反映されていけない」との説明がされました。

造改革という名の新自由主義が簡単に強行でき、格差社会を広げ、同時に戦争できる国づくりも着々と進められている」と指摘しました。

格差社会の拡大は自民党では駄目だと気付く人たちが増加し、「自民党員のピークは1991年の547万人で、今では約5分の1の109万人程度であるにも関わらず、政治資金が減少するどころか増え続けているのは、自民党政治が国民の代表として選ばれ、国民第一の政治をするのではなく、大企業から献金を受けては優遇政策を行い、私腹を肥やす事こそが目的であるが故だ」との事でした。

「これは比例代表選挙でも同様であり、政治資金規正法の改正による政党助成金制度も諸悪の根源である」と併せて訴えられています。



政治の腐敗構造に深く切り込んだ上脇教授

「その結果、自公政権は福祉国家政策を否定し、構

取り掛かれるとのことでした。

参加者が集中して聞いていた姿も見えて取れ、講演終了後の質疑には分会からも意見があがり、上脇先生が話された政治への不信には強い関心があることが改めて示されました。



久保田書記長

久保田書記長の今春闘の報告と行動提起の中では、今後の阪神支部のたたかい方や日程確認に加えて、全港湾中央港湾団交の経過と方向性が示されました。

3月25日に行われる3回目の交渉の結果如何では、27日にリモートで開催予定の春闘総決起集会を経て、ストライキも辞さない覚悟を求められており、「決起集会にはより多くの方がリモート参加する事により全

国港湾を後押ししてもらいたい」との強い決意が示されました。

当日は32分会37名、執行部18名と合わせ計55名が集結し、物価上昇を上回る賃金引き上げに向けて志を共にする事ができ、最後に池口執行委員の団結ガンバロで散会しました。

福島原発事故の原発事故でふるさとを奪われ、兵庫に避難した人々をめぐり訴訟に、難しい言葉も、難しい言葉がいくつも出てくる◆相手の法律上の責任を明らかにし、賠償を求める以上、仕方がないのだろう。だが、原告たちのやるせない悲しみは角張った言葉ではとても伝えきれない。一方、相手は法律用語の盾で身を守り、顔すら見せない◆兵庫の原告たちが神戸地裁に訴えたのは、東日本大震災から2年半が過ぎた2013年9月。「国の責任をはっきりさせる」、そう自ら奮い立たせていた原告の一人が先日ぼつりと言った。「正直、疲れました」◆どれだけ長く、つらい日々だったか。とりわけ孤立を深めたのが「自主避難」と呼ばれた人々だ。空間線量で引かれた境界線の「外」だからと、まともな補償も受けられず、ふるさとを捨てたと陰口まで◆放射能に対する不安の感じ方は千差万別だ。それを踏まえた「避難の権利」は事故後にできた新法で定められたが、事故を起こした国の責任を、最高裁は認めなかった◆望まない避難をさせた責任は電力会社のみにある、と誰が思うのか。

24春闘大幅な賃上げを！ 労働者不足を解消し、 魅力ある産業に！

関西地本

要求提出

2月26日、関西地本第一回集団統一交渉がアトホテル大阪ベイタワーにて行われました。



島山委員長

はじめに、島山委員長より元日からの能登半島地震や翌日の飛行機炎上事故にふれ、「阪神淡路大震災を彷彿とするような災害があり、七尾港が甚大な被害を受け、港湾労働者とその家族は未だに苦難の下に置かれており、全国港湾では日港協に対し救済の要求を提出している」と報告しました。

また、「厳しい船出となった2024年は経済の転換点となる大切な年でもある」と話され、「政局では自民党の派閥を巡る政治資金問題が岸田政権を直撃し、9月末には岸田政権が支持されるか否かとなる総裁選挙がある」とし、「国際情勢では3月にロシア大

統領選挙、11月にはアメリカ大統領選挙と続きイスラム組織ハマスとイスラエルとの紛争、北朝鮮はミサイル開発を進め、中国分離状況で隣国や台湾海峡で緊張が走っている」と話しました。

また、「業界では2024年問題が社会的にもクロズアップされ、労働時間も施行され、労働者不足が叫ばれている港湾運輸業界において、その社会的役割や重要性を垣間見ると労働者不足を解消し、魅力ある産業にするための改革が不可欠で、第一に賃金の大幅な改善がもつとも重要視されなければならないのは共通認識である」と話し、「大手企業では春闘要求に満額回答、株価の方では史上最高値を更新したとニュースではよく耳にするが庶民にはまったく関係のない話であり、実質賃金は2年連続の減少、賃上げは物価上昇に追い付いてこないのが現実で、岸田政権は定額減税や給付金で総額4兆円を国民に配ろうとしているが、一時的なものであり防衛増税、少子化対策増税が現実味をおびる」とし、

「所得を持続的に高めるには今春闘の賃上げ、なかでもベースアップがポイントになる」と強い意志を示しました。

続いて、樋口書記長より全国港湾中央本部の要求額3万円以上の引上げと全国港湾ならびに港湾同盟に加盟する各単組が掲げる初任給20万2000円の要求と関西地本の統一要求の趣旨説明が行われました。

また、各支部より要求の趣旨説明があり、団体交渉を終えていきました。

阪神支部 第一回突き上げ交渉



腕章着用で交渉に臨む

3月19日、大阪港勤労福祉会館にて阪神支部第一回突き上げ交渉を行いました。

冒頭、河野委員長から「大企業ではすでに要求以上の回答が出ているようなところもあるが、我われ中小企業までは波及していない。価格転嫁を進めなければいけない。そのような状況ではあるが、今春闘も重要な位置づけとして臨み、3万円以上の要求を出している」と現状の回答に満足していない旨を話しました。

続けて久保田書記長は「春闘期間はまだまだ長い。1度、2度だけではなく、納得いくまで何度でも交渉を重ねてもらいたい」と企業に誠意ある対応を求めました。

集団交渉の後、共済会の全体会議が行われ、安全衛生委員会から災害時の避難場所の確認やマップの見直しなどが求められ突き上げ交渉を終えました。

教宣部員 遠藤 佑助

24春闘

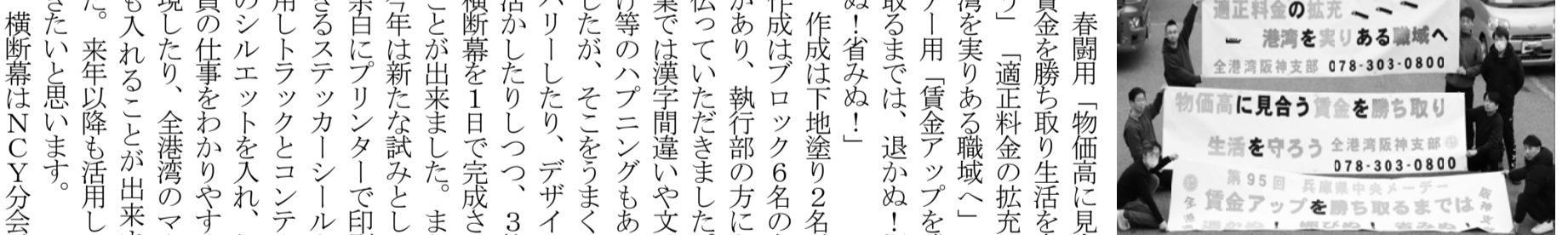
横断幕作成

神戸ブロック

今年も無事に横断幕が完成しました。

スローガン案については事前にメール等で募集を行い、17個の案が集まりました。スローガンの選定を行い、欠席者には事前に一覧を送付し、投票に多くの意見を反映できるように工夫しました。また、投票の結果を踏まえて出席者で議論を行い決定しました。横断幕の掲示場所が2分会であり、春闘用2つ、メーデー用1つ合計3つのスローガンを採用しました。

作成は下地塗り2名、本作成はブロック6名の参加があり、執行部の方にも手伝っていただきました。作業では漢字間違いや文言抜け等のハプニングもありましたが、そこをうまくリカバーしたり、デザインに活かしたりしつつ、3枚の横断幕を1日で完成させることが出来ました。また、今年には新たな試みとして、余白にプリンターで印刷できるステッカーシールを使用しトラックとコンテナ船のシールエットを入れ、組合員の仕事をわかりやすく表現したり、全港湾のマークも入れることが出来ました。来年以降も活用していきたいと思えます。



1日で3枚の横断幕を作成

洋運輸分会に掲示していきすので、近くを通った際は出来栄を確認していただければ幸いです。

神戸ブロック事務局長 脇坂 光一

大阪ブロック

2月24日春闘横断幕の作成をブロック員5名、支部執行委員3名でエル食堂横のコンテナハウス(元大阪ブロック会議室)で行いました。下地から色を塗り手作業で作成しています。今年には8名と参加者が多く、スムーズに作業をする事ができ、イレギュラーにもチームワークよく意見を出し合い作成する事が出来ました。

NCY車庫前は「物価高を超える賃上げを勝ち取り未来に展望を持てる社会を！全港湾阪神支部」JET車庫前には「港湾労働者の団結で賃金・労働条件の改善と安全衛生の確立を！全港湾阪神支部」と掲示しました。

今年の横断幕も強風対策のためプラスチックダンボールを裏面に使い補強しましたが、持ち運びに不便さを感じるとの意見もありました。そのため今回は2枚のうち1枚はプラスチックダンボールをやめて紙を

真剣に手作業で作成



真剣に手作業で作成

皆田 麗

来年・再来年とこの活動を継続しブロックの活動を繋げていけるように今後もブロック一丸となり頑張っていけます。

大阪ブロック長

阪神支部24春闘宣伝行動

「見える・聞こえる」 早朝ビラ配り&宣伝カー運行



「見える・聞こえる」
早朝のビラ配りでは例年以上に受け取ってくれる人が多く、世間の春闘や賃上げへの関心の高さがうかがえます。

今年も阪神支部独自の取り組みである「見える・聞こえる」春闘宣伝行動として、大阪・神戸の駅頭で早朝ビラ配りと港湾地区での宣伝カー運行に取り組ん

はすれ違う仲間などからの激励もあり、旺盛に取り組みめています。



したが、まだまだ終わってはいません。阪神支部はこれからも宣伝行動の旺盛な展開により組織拡大を目指します。これからも積極的な参加をお願いします。宣伝を見かけましたら仲間への応援

全港湾第24回全国青年対策交流集会

関西で初の開催！

全国青年対策交流集会が2月28日から3月2日の3日間、ホテルクライトン新大阪で開催されました。

今年もコロナ、インフルエンザが流行している中、開催できた事が嬉しく思います。

今年初めての関西での開催となりました。約1年程前からの関西地本青年部の役員で準備をはじめ、全て自分達だけで開催に向けて取り組みました。当日を迎えるまで、議論を繰り返して何度も行程を

変更したり、会場やフィールドの下見、学習会の内容をどうするか等、開催の2日前まで代表者会議で各支部代表者の皆さんと制作していきましました。1日目は午後からのスタートで関西地本青年部の芳野部長の挨拶から始まり、学習講義では「港湾産別」について中央の松永書記長が講師をされました。その中で「今の時代は学校の先生から就職が斡旋される時には港湾関係の仕事を生徒には薦めていない現

状がある」とし、更に「休みはあるが仕事があれば出勤しなければならぬ。残業しなければ給料が少ない。現実には厳しいものがあるが、オヤジのおる会社に入りたいと息子に言われる会社にしていかなければならぬ」と話された内容は印象深く、とても勉強になりました。学習会では大阪IRについて4つのテーマで学習しました。IRについては築港支部。経済面における問題についてには阪神支部。インフラ整備問題については大阪支部。治安への影響については神戸支部。各支部がそれぞれ考え、資料などを



展望台から見た夢洲

2日目はフィールドワークでマイクロバス2台に分かれ、神戸市にある開港120年記念事業として開館された施設の見学に行きました。昼からはさきしまコスモタワー展望台の視察に行きました。そこではやはり万博会場のある夢洲に参加者の注目が集まりました。全く工事が進んでおらず、1年後に開催できるのかといった疑問や、コンテナヤードがあり交通が麻痺するのが明確でした。初めて大阪に来る人も多かったため、コスモタワー展望台は非常にいいフィールドワークとなりました。大阪港湾福祉センターに戻り、2日目の夕方まで疲れもあり眠気が襲う中、島山副委員長による学習講義で「労基法」について学びま

した。まず最初に、「皆さん寝られませんか」の一言があり、何が始まるのかと思っていたら、一問一答形式の学習講義でした。背筋が伸び、いつ自分に当たるかと緊張感をもって参加者も集中していました。内容は労基法に関する基本的なものから難しい内容まで多様な問題があり、非常に分かりやすく、時間が足りないくらいでした。労基法は知っていて損はしないのでまた講義があれば聞いてみたいのです。



全国から青年層の仲間が集った

ホテルクライトンに戻り1日目同様、交流親睦会が行われ、中盤ぐらいに島山副委員長から「ささやかではあるが、プレゼントがある」と関西のメンバーが舞台に集められ、プレゼントがもらえると張り切っていました。そして見事に優勝した方には港湾労働の記事原稿800字の宿題がプレゼントされ、会場は大爆笑でした。そんな楽しい時間はすぐに過ぎていきました。3日目は分散会でのまとめを各班ごとに発表し、最後は団結ガンバローで締め、無事に第24回全国青年対策交流集会

集め、勉強してきたことを発表しました。分散会後の感想では「とても分かりやすく、パワーポイントを活用し、数字や実際に撮影された動画などが非常に分かりやすい」との声が非常に多く挙がりました。ニュースなどは都合の良い部分しか放送しておらず、今大阪が抱えている問題が明確に伝えられた非常に良い学習会と分散会になりました。夜には親睦交流会が行われ、皆さん緊張気味でしたが、時間が経つにつれ緊張の糸もほぐれ、良い時間を過ごすことができました。



全港湾青年部、未来へ団結ガンバロー

した。私自身、全国青対は初参加で阪神支部青年部部長ではあるものの、各支部の先輩方に色いろ教わり勉強になりました。大きなトラブルもなく無事に関西での開催を終える事ができました。関係者の皆さんお疲れ様でした。

来年からも全国青年対策交流集会はありますので、青年部の方達には参加人数が可能な限り参加してもらい、様々な活動を通して全国の青年層と交流してもらいたいと思います。今後も青年部として様々な運動に取り組んでいきますので、各分会へご理解とご協力の方宜しくお願ひします。 菱倉運輸分会 青年部部長 西 武嗣

非核「神戸方式」 決議49周年記念のつどい これから非核神戸方式を尊 重していく市長メッセージより

3月18日、非核「神戸方式」決議49周年記念のつどいが兵庫県民会館大ホールにて開催され、会場には196名が集まり、オンライン視聴を含め約250名が参加しました。

実行委員会を代表して挨拶に立った港湾共闘谷口議長は、岸田政権が平和憲法を無視し、軍備増強を強め日本が「戦争ができる国づくり」へ着々と進めていることに警鐘を鳴らしました。また非核「神戸方式」への神戸市議員やNHK党の参議院による圧力に対し、神戸市は日本が戦争被爆国として1971年に核兵器を「持たず、作らず、持ち込ませず」という国会で決議した「非核三原則」を厳格に実行しているだけで、何ら批判される理由はないことを説き、非核「神

戸方式」の今日的意義を訴えました。

次に久元神戸市長からのメッセージが読み上げられ、非核「神戸方式」を尊重していくという決意に会場から拍手が起りました。

マス他2名(WILPF)、ロラン・ニベ(フランス平和運動全国書記)、韓国の平和団体SPARK(平和と統一を拓く人々)など、連帯のビデオメッセージが紹介されました。



太田 昌克さん

基調報告した梶本兵庫県原水

協事務局局長は、①非核「神戸方式」の値打ち②世界の絶の流れ③日本原水協が提唱する「非核日本のキャンペーン」の重要性と憲法9条とともに、「世界の指針」となった非核「神戸方式」に誇りを持って世界の平和勢力との共同を強めようと呼びかけました。

9年前の非核「神戸方式」決議40周年記念の集いから2回目となる講師の太田昌克さん(共同通信社編集委員)は、核兵器を巡る世界の状況について、「9年前より状況は厳しくなっている」と「国際秩序崩壊の岐路 核と世界、そして日本」と題した講演を行いました。

太田さんは、ロシアの妨害でNPT(核不拡散条約)会議が2回決裂しており、さらにウクライナの戦争を契機に核の秩序崩壊の恐れがあるとして、具体的に中国が建設する高速増殖炉とサイロ(核実験場の設備)が進んでいることを衛生画像で指摘しました。

また米中対立の先鋭化で核軍拡競争の予兆として、「瓶の中の二匹のサソリ」が「三匹のサソリ」へと、双方絶命するまで攻撃するサソリになぞらえ、中国の核軍拡が加速していると批判しました。このように国際秩序が乱れ、核と人類の岐路として、核兵器を減らすのではなく、核兵器を増やすことに大きく状況が変わっていることと警鐘を鳴らしました。加えて日本における未曾有の危機として「核を持ち込ませず」をなくすという「非核三原則」の議論があることも説明されました。

最後に「人類はこの試練にどう立ち向かうべきか」、自身の記者としてイ



港湾共闘 谷口議長

平和評議会・映画監督)、ジョセフ・ガースン(平和軍縮共通安全保障キャンペーン)、コラソン・ファブロス(非核フィリピン連合事務局長)、エレン・ト

分かるかな？

懸賞クイズ



【問題】
ひろさんは毎日ピアノの練習を頑張っていますが、どれだけ練習しても一向にうまく曲を弾けるようになりません。なぜでしょう？

675号の回答
「3」

3名の方から応募があり、全員が正解でした。以下3名の方にQUOカードを進呈します。

西野太基・松尾徹・住昌三 (ジャパNEXP)

676号の締め切り日は、5月2日(木)です。ふるってご応募ください。

最後に「人類はこの試練にどう立ち向かうべきか」、自身の記者としてイ

ンタビューを行ってきた経験に基づき、※「核のタブー」の堅持・強化を諦めず、最後は私たち市民の声とアイデアであり、それが政治指導者の判断に委ねられるとして、「長崎を最後の被爆地に！」と訴え、講演を締めくくりました。

講演後、神戸港から沖縄県をはじめ全国・全世界のたたかいに連帯を表明し、憲法9条と非核「神戸方式」を守り、広げ核兵器のない平和で公正な日本、アジア、世界を実現すること

を呼びかけた「2024年非核神戸港アピール」が提案され、大きな拍手で採択されました。

※「核のタブー」とは、77年前、米国が広島、長崎に原爆を投下して以来、「タブー視されてきた核使用の可能性」

そして非核「神戸方式」のテーマ曲の「波よひろがれ」の大合唱後、兵庫県原水協の代表筆頭理事の津川

さんより、記念講演の自身の感想とともに非核日本キャンペーンを呼びかけ、非核「神戸方式」への圧力がある中、「これから

さんより、記念講演の自身の感想とともに非核日本キャンペーンを呼びかけ、非核「神戸方式」への圧力がある中、「これから

さんより、記念講演の自身の感想とともに非核日本キャンペーンを呼びかけ、非核「神戸方式」への圧力がある中、「これから

非核「神戸方式」決議49周年記念のつどい
1975.3.18⇒2024.3.18



テーマ曲「波よひろがれ」を大合唱